

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教職実践演習（幼稚園教諭二種）		2年	後期	別途、時間割参照
Practical Seminar for the Teaching Profession				
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	必修	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理、教育実習事前事後指導等の教職科目。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
(主)藤原保利、高橋登美子、小竹利夫、秋山真奈美	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
ポートフォリオ(学習の履歴、実習記録、実習評価表等)に基づく反省と考察の上で、①学習指導力(子どものレディネス理解力、授業設計力等)、②幼児指導力(子どもの発達理解力、幼稚園・学級での生活指導力等)、③調整力(幼稚園・家庭・地域社会及びその他の関係諸機関との連携・協力調整)、④学級経営力(学級経営理解力、学級・学年・学校行事の経営力等)の4つの事項を主たる授業内容とし、教職の理解とその実践力の習得を図る。				
授業の目標				
①誠実、公平に幼児に接し、幼児と共に学び、成長しようとする態度を身に付けることができるようにする。 ②挨拶や服装、言葉遣い、他者への配慮など社会人としての基本を修得することができるようにする。 ③幼児の発達や心身の状況に応じた、生きる力を育む学級経営の基礎を習得することができるようにする。 ④幼稚園教育・保育の目的、内容、方法についての基本的事項を確認し、遊びを通じた生活、学習指導に生かすことができるようにする。				
授業の方法				
講義、講演、模擬授業(役割演技を含む)、実技指導、ディスカッション、事例研究、そして現地調査(フィールドワーク)などを取り入れて教職実践力の習得を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①教育・保育に対する健全な使命感、責任感、教育的愛情熱をもって、「支え合い、学び合う共同体」を形成することができる。 ②保護者並びに地域の人々、関係諸機関と連携、協力しながら、チームワークをもって課題に適切に対処することができる。 ③幼児の特性や発達過程を十分に認識し、遊びを通じた総合的な指導、学級経営、集団指導等に応用、総合し、「生きる力」の基礎を育むことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明 (藤原)			
第2回目	「教職実践演習」を進めるうえでのプレゼンテーションの仕方等について (藤原)			
第3回目	外部講師による講演：テーマ「児童生徒理解について」(佐野市教育委員会)＊レポート提出(藤原、小竹)			
第4回目	研究発表、模擬保育の企画と活動について(藤原、高橋、小竹、秋山)			
第5回目	外部講師による講演：「現代社会の教育諸問題と教職の課題」(佐野日本大学中等教育学校長)＊レポート提出(藤原、秋山)			
第6回目	外部講師による講演：「指導計画、学級経営案の作成について」(幼稚園長)＊レポート提出(藤原、高橋)			

第7回目	幼児の理解を踏まえた発達にふさわしい実践と評価活動の展開 ＊レポート提出 (秋山)		
第8回目	5領域を取り入れた観点を明確にした模擬保育について ＊レポート提出 (高橋)		
第9回目	家庭・地域・専門機関との連携～発達障害児の理解・援助と保護者のかかわりについて～ ＊レポート提出(小竹)		
第10回目	保育指導技術の理解と実践(先進的事例の調査報告) ＊レポート提出(藤原)		
第11回目	総合的指導に立った模擬保育に向けての教材研究・資料作成① (藤原、高橋、小竹、秋山)		
第12回目	総合的指導に立った模擬保育に向けての教材研究・資料作成② (藤原、高橋、小竹、秋山)		
第13回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅰ・・・実演指導【まとめ】	学習指導力の確認、幼児の総合理解力、保育内容デザイン力等。(藤原、高橋、小竹、秋山)	
第14回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅱ・・・実演指導【まとめ】	学習指導力、幼児の総合理解力、保育内容デザイン力、学級経営力等。(藤原、高橋、小竹、秋山)	
第15回目	課題設定研究発表・模擬保育Ⅲ・・・実演指導【まとめ】	担当教員からの指導：授業の振り返りと考察、資質能力を確認し、教職実践力を分析する。(藤原、高橋、小竹、秋山)	
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する)
レポート		30%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(提出日等詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書		10%	課題意識も明確で、適切かつ正確な資料を用いてテーマの深さを示す。調査内容も充実しており、独創性も見られ、提案された指導案も子どもの姿を正確にとらえ、発達を促すものとなっている。
小テスト			
試験			
発表内容(態度含む)		40%	適切かつ正確な資料を用いることによってテーマの理解の深さを示す。パワーポイントを駆使してプレゼンテーションの仕方も適切である。誰もが聞き取れるように、大きな声で生き生きとした調子で発表している。
その他			
教科書と参考図書			
教科書：「幼稚園教育要領」(文部科学省)、「保育所保育指針」(厚生労働省) 参考書：「幼稚園教育要領解説書」(文部科学省)、「保育所保育指針解説書」(厚生労働省) 授業担当者より適宜指示または資料を配布する。			
履修上の留意点・ルール			
目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等の持ち込み禁止。			